

# STEP 3

## 銘柄をさらに絞り込む

- 1 銘柄をさらに絞り込む
- 2 各項目の説明



# 1 銘柄をさらに絞り込む

ここでは抽出された銘柄を様々なデータを元にしてさらに絞り込むことが可能です。

絞り込む項目としては以下のものとなります。

The screenshot shows a window titled 'スクリーン' with a search bar and a list of stocks. A red box highlights the search criteria, and a blue box highlights the '最初からやり直す' (Reset) button. A yellow box highlights the '以上の銘柄で確定する' (Confirm with the above stocks) button. The table below is a simplified version of the data shown in the screenshot.

No.	銘柄名	株価(円)	PER	PBR	ROA	ROE	配当率
1	売上増見通し	380000	買	12	58	+10.14	
2	配当金がある	98000	注	15	53	+5.35	
3	配当金が増加する見通し	22100	買	15	60	+8.14	
4	配当金が復配する見通し	121000	注	16	60	+8.69	
5	PERが低い	150000	買	11	55	+5.57	
6	PERが低い企業評価に対して割安感がある	393000	注	12	59	+8.74	
7	株価位置が低い割安感がある	121700	注	12	50	+5.91	
8	株価位置が高く人気がある反面、下落リスクあり	406000	注	6	60	+9.29	
9	長期的に上昇トレンド継続中	348000	注	13	62	+8.78	
10	出来高が急増中で株価が上昇する可能性あり	146000	買	13	62	+6.57	
11	2778 月利毛	1285	買	12	58	+6.95	
12	2809 トヨタコンパス	467	買	12	58	+7.71	
13	2926 豊崎電	150000	買	6	50	+9.18	
14	3529 グローバルス	234	買	12	59	+7.74	
15	4187 大船	915	買	16	56	+5.49	
16	4304 エストアール	306800	買	13	64	+8.86	
17	4308 Jストリート	229000	買	13	62	+6.86	
18	4326 バンクセント	372000	買	14	57	+9.27	
19	4721 アビススタッフ	386	買	15	53	+9.03	
20	4826 GJ	600	買	12	59	+8.06	
21	4829 日本エンター	135000	買	17	59	+12.05	

検索項目を切り替えていくことで、条件に従って銘柄が絞り込まれていきます。

銘柄が全て消えてしまったときなどは、「最初からやり直すボタン」を押すことで、銘柄を絞り込む前の状態に戻ります。

絞り込みの作業が終わったら、下部にある「以上の銘柄で確定する」というボタンをクリックするとSTEP 4に進みます。

- 業績が良い (売上高、経常益がそれぞれ 2% 以上の増収増益。且つ配当を実施している)
- 売上増収見通し (売上高 2% 以上増収)
- 経常増益見通し (経常益 2% 以上増益)
- 黒字に転換する見通し (前期経常赤字が当期黒字見通し)
- 配当金がある
- 配当金が増加する見通し
- 配当金が復配する見通し (配当金、前期無配が当期配当実施)
- PER が低く企業評価に対して割安感がある (PER15 倍以下)
- PBR が低く企業評価に対して割安感がある (PBR1.0 倍以下)
- 株価位置が低く割安感がある (株価位置 30% 以下)
- 株価位置が高く人気がある反面、下落リスクあり (株価位置 70% 以上)
- 長期的に上昇トレンド継続中 (GCV を日足 156 日、週足 142 週、月足 232 カ月でそれぞれ算出した値が 30% 以上)
- 出来高が急増中で株価が上昇する可能性あり (直近の出来高がそれ以前の 20 本分の出来高平均と比較して 3 倍以上)



## 2 各項目の説明

### 【株価、売買単位】

株価はいわゆる「株式」そのものの値段のことです。この株価が市場で取引される毎に値段が高くなったり安くなったりします。株式にはそれぞれ「売買単位」というものがあります。例えば、ある会社の株価が500円だからといって、500円を出せばその株が購入できるというわけではありません。もし売買単位が1000株であれば、500円×1000株=50万円が最低でも購入資金として必要ということになります（実際の購入にはさらに手数料も必要となります）。株の購入を考える時には「株価」と「売買単位」の両方を考える必要があります。絞り込みの画面では、最低購入資金が単価（株価×売買単位）として表示されています。

### 【PER】

株価収益率のことで、直近の株価÷一株益という計算式で求められます。つまり「株式一株が生み出す利益に対して何倍まで株価として評価されているか」を表す指標と言えます。数値が低いほどその株価は「割安」であると評価されますので、購入する際にはPERの低い銘柄を買うというのが基本的なスタンスとなります。一般的にはPERが20倍以下であれば、割安と判断される傾向にあります。市場の平均PERと常に比較することも必要です。例えば東証1部連結PER（ハローコード170）のチャートを見ますと、2005年6月頃のPERは17倍前後を推移しており、市場全体と比較するとPER20倍であっても平均よりむしろやや割高ということが言えます。

### 【株価位置】

チャート上の一定期間の中で、その銘柄の最高値を100%、最安値を0%と設定し、現在の株価がどの水準にあるのかを示した指標です。仮に株価位置が10%としますと、その銘柄は現在底値圏に位置しているということで、株価に上昇余地があるのではないかと推測がなされます。反対に株価位置が90%とすると、その銘柄は現在高値圏に位置しているということで、株価は下降する可能性があるのではないかと推測がなされます。もちろん、最高値、最安値共に更新していく可能性もありますから、絶対的なものとは言えません。過去の株価から考えた場合の予測であるということは念頭に置いてください。

STEP  
3

### 【PBR】

株価純資産倍率のことで、直近の株価÷一株純資産という計算式で求められます。企業一株純資産に対して株価が何倍まで買われているかを示したもので、実際の企業の価値より何倍まで株価として評価されているかを表す指標と言えます。PER同様PBRも数値が低いほど株価が「割安」であると評価され、一般的に基準値は1倍とされ、1倍以下であれば企業価値と比較して株式が売られすぎであるという判断がされる傾向にあります。但し、こちらもPER同様、全体市場との比較や、景気動向などからの判断を加味する必要があり、「1倍割れ即買い」という判断は場合によっては早計とも言えます。



### 【売上高、営業益、経常益、税引益】

企業業績は、その企業の経営実態を把握する上での基本データと言えます。売上高は企業が商品やサービスを販売した額を計上した数値です。この売上高から売上原価を引いた売上総利益からさらに広告費や人件費などの販売費・一般管理費を引いたものが「営業益」。この営業益に事業本来の活動から発生した損益(株式の配当、利息、テナント収入など)を加減し、営業外費用を除いたものが「経常益」、さらに経常益に特別損益を加減したのから法人税、住民税を引いたものが「税引益」です。これらの数値が上昇している企業は業績が好調であることを意味し、株価にも好材料として評価される傾向にあります。

### 【出来高】

市場で売買が成立した株数のことです。当然のことながら買われた株数だけでなく、売られた株数も含まれますので、出来高上昇 = 株価上昇ではありません。また、市場に出回っている株数というものは、銘柄ごとに大きく異なります。東証1部上場の大手企業では発行株数が多く、新興市場系上場企業では発行株数が少ない傾向にありますので、両者の出来高数を単純に比較するわけには行きません。出来高は1つの銘柄の中で推移を観察するのが一般的な考え方と言えます。仮に、ある銘柄がそれまでよりも何倍もの出来高を伴うようなことがあれば、その銘柄は何らかの要因で市場の注目を集め、通常よりもさかんに株式が取引されていることとなります。よって、株価が大きく推移する可能性も高いので、注意を払っておく必要があります。

### 【年間配当利回り】

企業は決算期ごとに利益を株主に分配します。それを配当と呼びます。年間の配当金額を株価で割ったものが「年間配当利回り」です。仮に年間配当金が10円の会社の株価が1000円であれば年間配当利回りは1%ということになります。現在は銀行の預金金利などより企業配当の方が優位にあり、2005年6月時点の東証1部の平均配当利回りは約1.37%です。さらに、これよりも数値が大きければ配当利回りの面から有利な銘柄ということで評価され、株価上昇となる可能性があります。特に多くの企業が決算期を迎える3月前になると、配当が相場のテーマとして注目され、好配当銘柄が人気化するケースがあります。

### 【業績修正】

企業は決算数値を発表する際、当期の業績結果だけでなく、来期の業績見通しも併せて発表します。株価は将来の予測を先へ先へと織り込んでいく傾向にあるので、業績発表時には当期の業績結果より来期の業績見通し、いわゆる決算予想数値を重視する傾向があります。この決算予想数値は決算発表があってから、企業が販売状況などを見て数値を修正するケースがあります。これが「業績修正」です。業績修正が発表される時機や回数などには特に決まりはありません。当初予想よりも業績がさらに良いという見通しが出てきたいわゆる「上方修正」は株価に好材料となります。反対に当初予想よりも悪いという見通しになった「下方修正」は株価に悪材料となります。

**【増配、復配】**

株主に利益を還元する配当金が前期よりも高くなったものを増配。また前期無配（配当金がゼロであること）であったものが当期に配当が出ることになったものを復配といいます。増配は企業業績が順調に成長していることを表しますし、復配は企業が不振から立ち直ったことなどを表します。いずれにせよ株価には好材料と見なされませぬ。

